

安土町地域自治区長たより

No. 53 平成 25(2013)年 4月 12日(金)
発行 安土町地域自治区事務所
(安土町総合支所)

<少年ソフトテニスで全国大会へ>

3月28日(木)、安土ジュニアソフトテニス・スポーツ少年団の高谷陸人・佐井悠馬チーム(現安土小6年)が千葉県で行われた大会に出場しました。



<文芸の郷管理運営あり方検討委員会>

3月28日(木)、第4回委員会が開催。提言をまとめられました。提言は29日に石丸委員長から市長に手交されました。



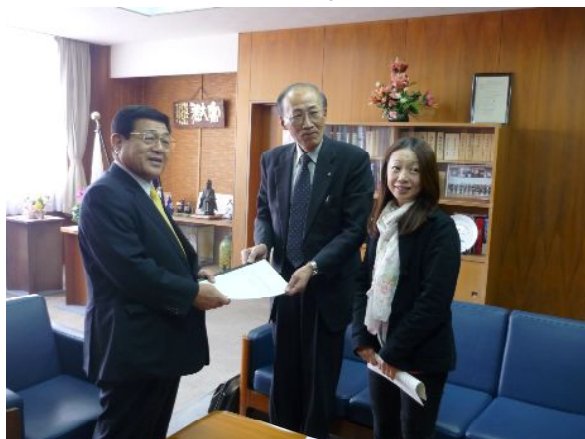
<老蘇コミセンの拠点の整地始まる>

旧JA老蘇ふれあい店の解体が始まりました。



<第2期地域協議会の中間報告>

3月29日(金)、地域協議会の大林輝男会長と岡山かよ子副会長が市長に一年間のまとめを報告されました。



<安土学区まちづくり協議会設立総会>

3月30日(土)、評議員80数名の参加のもと設立総会が開催。新市11番目のまち協が誕生しました。



<安土コミセンの除幕式>

4月2日(火)、安土学区まち協の拠点となるコミュニティセンターの開所式が行われました。

この日からまち協の事務局がコミセン内におかれ、「安土創発：歴史と文化のまちづくり」の活動が始まりました。



<「天下布武」の歌碑建設に向けて>

4月3日(水)、三村善雄安土町商工会会長が、市長と面談され、鳥羽一郎の「天下布武」の歌を石碑に刻んだ歌碑を安土文芸の郷に寄贈することについてお願いされました。



<史跡セミナリヨ跡横の堀について>

4月5日(金)、下豊浦区長はじめ関係者が、堀にたまったヘドロについて市長に説明し地元要望をされました。



<パトライトが総合支所前に設置>

4月5日(金)、交通安全のためのパトライトが総合支所と図書館前に設置されました。



点灯式の風景

<視点>

・『葉っぱのフェディ』を読んで心温まる思いをされた方も多いだろう。ここでは、もう一冊、『葉っぱの不思議な力』（鷲谷いづみ著）を紹介したい。「緑の地球には、人間を含めて様々な動物、植物、微生物が暮らしています。そのすべての暮らしになくてはならない有機物（養分）を、植物は太陽から降り注ぐ光を利用して作りだしています。その働きが光合成です」と学校の理科で習ったような文章が「序」に書かれています。

・本のカバーには「わずかな光を受け止めたかと思うと、強すぎる光はよける。虫に食べられたかと思うとやり返す。水が足りなければやりくりし、あまれば捨てる。強くてしなやか、時にしたたか。不思議な力をもつ葉っぱが今日も緑の地球を支えています」と。

・植物は、「動かない」「餌を食べない」。その秘密は“光合成”、光と水とミネラル二酸化炭素で栄養をつくりだす仕組みにある。その不思議さが満載。

・例えば、向日葵のように太陽をいっぱい浴びる葉のつき方は鮮やかである。乾燥した土地では、サボテンのように針の葉になって耐えぬく工夫。夏の暑さに対応して昼寝をする葉やワックスのような表皮を持つ葉。湿地に生えるアサザは次々と葉を製造することで生き抜く。フジやサルトリイバラは、他の物を支えにするから茎や根は細く弱くても可能になる知恵がある。さらに、昆虫に葉を食べられないような工夫をするトゲや粘液をだす植物なども紹介されている。

・時は、入園・入学式の時期。双葉のごとき子ども達が新しい環境に入る時期。根から水とミネラルを吸い上げるごとく、子どもたちは大地に根を張って、知識を葉に吸い上げていく。そして、光を求めて伸びていく。その工夫の姿は、教育の世界も同じ。

・数学の得意な子、絵や音楽の好きな子。走りの速い子。背の高い子、低い子。太った子、痩せた子。すばしっこい子、動くことの好きな子、じっとして考えることの好きな子。十人十色の子もたちが学ぶ一つの教室に、子どもたちはそれぞれに適応し順応して成長していく。そうして、それぞれの人生をつくっていく過程が興味深い。

・桜の花の満開の中、通園・通学する校園にあって、光合成をして「知識」と「栄養」を体内の取り込み、自分の夢に向かって頑張ってもらいたい。月並みだが「少年よ、大志を抱け」と。人生の不思議さをいっぱい味わってほしいと祈らずにはおれない。(K)